

リトアニアでの留学が始まって2ヶ月目の報告をします。2ヶ月目ともなれば、少しずつ授業の仕組みがわかってくる時期、観光や旅行をし始める時期、そして広がっていく交友関係と、それについて少し考える時期など、色々な出来事が重なってきたような印象を受けました。

以下、冗長な文章が続きますがご了承ください。

### 【ヴィリニウス大学での授業】

ヴィリニウス大学での授業は、私にとって想定外のものでした。まず、私が取っている授業は主に、毎週開講の **Lecture** 形式と隔週開講の **Seminar** 形式に分かれており、ディスカッション中心の **Seminar** がある週には一つの授業が90分×2 (**Lecture + Seminar**) の時間で行われます。そのため、始めの履修登録時には **Seminar** のある授業とない授業の時間帯を考慮して考えなければいけません。当時は当然そう思って登録したのですが、前学期から留学していた方に話を聞くと、「別に授業が被っていても大丈夫」「被っていたら、先生に『今日は別の授業に行くので行きません』と報告すればそれでいい」と言われました。実際に蓋を開けてみると、授業に参加する生徒も参加しない生徒も（授業によりますが）大勢いるようです。これはヴィリニウス大学の正規生ではないから GPA に響かないという留学生特有の傾向かもしれません。教授によっては出席確認をする場合もあれば、代わりに課題を出せば大丈夫と言う場合もあり、さらには最終のテストさえ合格できれば出席しなくてもいいとする場合もあります。

授業のスケジュールは授業によってばらばらです。前述した“毎週 **Lecture**+隔週 **Seminar** スタイル”の他に、“毎週 **Lecture** だけスタイル”、“毎週 **Lecture**×3スタイル”、“1クォーター集中スタイル”、“夕方から授業スタイル”など、多岐に渡っています。

課題については、基本的にデジタルで配布されます。そのため、iPad でもない限り資料（英語）への書き込みは非常に困難です。iPad が無ければ自分でプリントをすればいい話なのですが、配布される資料が、授業にも依りますが、決して少ない量とは言えないので、毎回印刷するのは厄介です。今は試行錯誤中です。（課題が毎回印刷されて配布されることが如何に有り難い事なのかを肌で実感しております。）

### 【十字架の丘 in リトアニア】

十字架の丘は首都ヴィリニウスから少し離れた土地にあります。教会を訪れるときにもよく思うのですが、一応、“仏教もしくは神道を信仰している身”としてはキリスト教の聖地にただの観光目的で足を踏み入れるのは気が引けますが、それこそ日本では感じられない気持ちなのかもしれません。



十字架の丘にはその丘を登る細い階段のようなものがあるのですが、そこに極寒の中で蹲っている人がいました。通り過ぎるとき、Money, pleaseと言われました。そのとき私は、彼は一体何に救済を求めているのだろうと思いました。

私の生まれた国では「祈れば救われる」などと口にすれば、周りから白い目で見られます。こうした国民が知らぬ間に除外してきた“蹲る人”が神社や寺院で見られないというのが突然恐ろしく感じられました。



### 【リトアニアの第二独立記念日】

リトアニアにとって、1918年2月16日は第一の独立記念日であり、1990年3月11日は第二の独立記念日であるとされています。



### 【KGB ジェノサイド博物館 in リトアニア】

旧ソ連の秘密警察 KGB の元本部であり、地下には実際に人々が捕らえられ、拷問されていた拘留所がありました。写真は載せません。

### 【アウシュヴィッツ・ビルゲナウ博物館 in ポーランド】

ナチス・ドイツ軍がユダヤ民族大量虐殺をはじめとする恐怖政治の実行のために設立した最大の収容所です。写真はほとんど撮影していません。

### 【日本人の友達と日本人じゃない友達】

先日、韓国人の友達と射撃場に行きました。それも、実弾を使った射撃ができる場所です。正直なところ、拳銃とかライフルを生で見るとは初めてだったし、実弾が撃たれたときの爆音なんて映画やドラマの比じゃなかったし、拳銃を実際に手に取った時の“重み”は想像を遥かに超えてきました。もう一人日本人がいたのですが、彼も私と同じような感想を抱いていたかと思います。



しかし、心底怯えていた自分達とは対照的に、韓国人の友達はそれほど怖がる様子もなく、実弾での射撃を楽しんでいました。その時の思いを歯に衣着せずに表示すれば、実弾に怯えている自分達はきっと正常で、人を殺めるような道具で楽しめる彼らは少しおかしいのではないかなどと

思っていました。

韓国では、すべての成人男子（19歳）に約2年の兵役義務が課せられるそうです。大学に進学する人は30歳までの入隊延期が可能とのことですが、韓国から留学に来ている私の友達は口を揃えて「大学卒業後に2年も兵役に就いていたら大学での勉強を忘れるだろうから、もうしてきた」と言いました。実弾の込められた銃に慣れている彼らは何もおかしくなかったし、銃に慣れていない自分達の怯えも決しておかしくはなかったと思いました。分からないのは、彼らをおかしいと思った自分はおかしかったかどうか、です。

よく留学生活でありがちなのが、ルームメイト問題です。異なる国・文化で育ってきた人間と生活を共にするのはどうしても不和が生じがちで、自分にとってストレスフルな行動をとる相手に嫌悪感を覚えたり、ときにはその人の国の文化まで否定したくなる時があります。「そんな文化なんか嫌いだ」とか「自分の育った環境が一番良い」とかです。これはある意味、自文化中心主義のようなものだと思っています。

私のルームメイトもまた、往々にして“私にとって常軌を逸した行動”をとって、私の心を擦り減らします。一応、留学前から「ルームメイトとの不和は、異なる文化圏の人と生活をするのだから仕方ない」と覚悟していました。しかし実際はどこかへ消えてくれとまで思う程に文化の違いというものは厄介であり、さらに残念なことと言えば、そのルームメイトは他でもなく、母国を共にするはずの日本人でした。一方で、他の日本人、韓国人、リトアニア人、インド人、ウクライナ人、ドイツ人、シンガポール人、イタリア人、みんな良い人達です。最近では彼らを総じて“外国の人”と呼ぶことに非常に違和感を覚えます。その日本人ルームメイトは「もう“外人”とは絡まない」らしく、今後1年間を共にする年下として少し困っています。